

第50号 通巻10巻第1号
1990年5月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

『夏も近づくと八十八夜・・・』五月初旬（2，3日）は、俗に八十八夜の「別れ霜」といわれ、農作業では夏野菜の播種、田植えなど重要な季節です。

さて、この時期当センターに携わる職員にも多少の異動があり、今後は下記のメンバーにて業務を運営していきますので、今後ともよろしくお祈りします。

藤本英策

河野三代

山崎秀二

伴野幸一

岩崎 茂

川畑和弘

宮下睦夫

畑本政美

着任にあたって

本年四月一日付けをもちまして、前任 勝見所長の後をうけ、着任致しました藤本でございます。前任者同様よろしくお願い申し上げます。

最近の考古学ブームは大変なもので、毎日のように新聞、テレビ等で遺跡発掘のニュースが流れ、出土品の解説がなされたりしております。この結果、今まで一般の方の興味の外に置かれていた古代史が、次第に身近なものとなり、文化向上の一助にも成っているようです。

わが守山市におきましても、やはり例外ではなく、当所の発掘現地での説明会や特別展示等の催しものをしてしましても、年々ご参加下さる方が増加するという嬉しい状況にあります。

しかしこうしたブームの背景をよく考えて見ますと、その背景には従来から古代

史というものが、ごく一部の大学研究室や学者の研究対象であり、発掘調査等もそれらの人々の手に委ねられていた傾向にあり、一般市民の対象になりにくかった点があります。

ところが最近ではこの傾向が薄れ、行政機関による発掘調査が全国的に広がり、定着し、埋蔵文化のかおりが全国にたどい始めることとなりました。

今まで博物館でしか見られなかった数々の古代人の生活道具や、古代貴人のお墓の中まで色鮮やかにテレビに映しだされ、古代が古代でないような感じさえするようになりました。この驚き、関心はまるでタイムカプセルを開けてみて、未知のものに遭遇したのと同質のもの珍しさの興味とも言えるかもしれません。厚いベールに包まれた埋蔵文化は、このような状況の下で市民の目の前に飛び出してきたわけです。

こうしたかたちで埋蔵文化が市民のものとなりつつある今、われわれは市民の関心がいつまでも持続し、市民に定着し正しい認識が深まるよう努力する必要があると思います。

そのためには、今後は発掘調査の目的や目標、学術上からみた埋蔵文化財の重要性を一般市民の方々に理解してもらい、協力してもらえようような努力をすることが大切だと思います。

このブームを単なる興味本位だけのものに終らせるのではなく、しっかりと市民の意識の中に根付かせ、調査研究と保護の必要性を理解してもらえてこそ、発掘行政を発展させる要因になると思います。

今後はこれらの調査研究の成果を広く市民に還元し、市民と共に埋蔵文化財の研究に取り組むことが埋蔵文化行政を預かる私たちの使命であることを自覚し、頑張っ
て参りたいと思っておりますので、関係の皆様方も何かと今後ともご指導を賜ま
わりますよう宜しくお願い申し上げます。

★発掘調査だより★

今年度の発掘調査予定は6ページの表のとおりとなっておりますが、この表での調査件数15遺跡19調査は、4月当初においてわかっているものです。例年は当初予定の件数よりも増えることが多く、今年度も昨年とほぼ近い調査件数の調査が見込まれます。さて今回の乙貞では、すでに調査が終った2か所を含め、4か所が4月より調査を実施しており、これらについての成果をお伝えします。

《 調査終了 》

1 ^{かねがもりいせき} 金森遺跡

共同住宅の建築に伴い調査を実施しました。先に試掘をしており、遺構が確認された部分について調査を行なったところ、溝1条を検出しました。この溝の中から少量の土器出土しました。時期は古墳時代前期と思われます。

2 ^{つかのこしせいせき} 塚之越遺跡

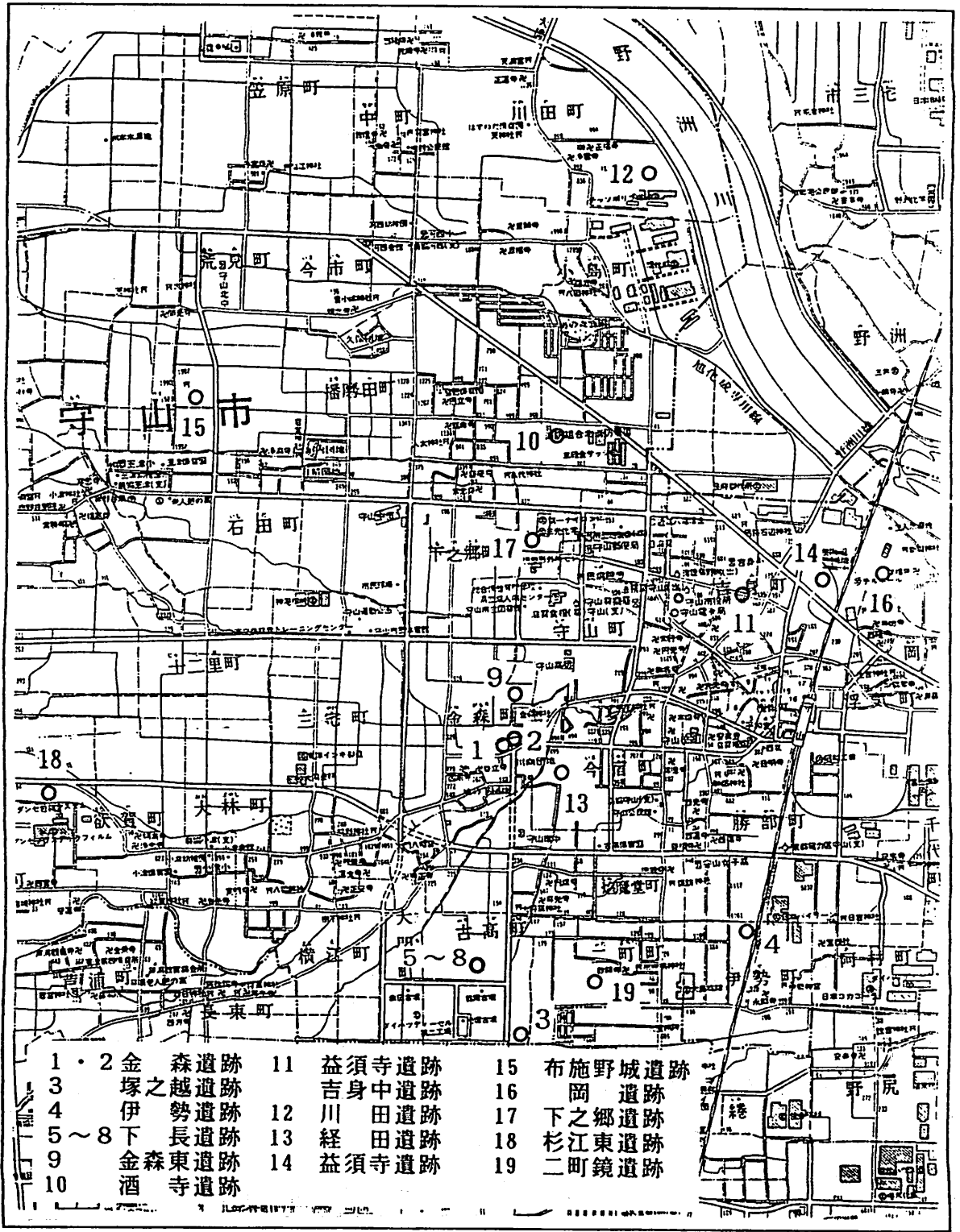
古高工業団地南側で、社員寮建設に先立ち約400 m²を対象に4月20日より調査を行ないました。その結果、溝1条、耕作痕、風倒木などが検出できました。溝は幅約1 m、深さ30cmを測るもので、東西方向に伸び、溝底より古墳時代前期の土器が若干出土しました。耕作痕、風倒木はともに時期は不明です。

《 調査中 》

3 ^{いせいせき} 伊勢遺跡

伊勢町の北の端にあたるJR琵琶湖線沿いで4月20日より調査を実施しました。宅地造成に伴う今回の調査は、2月行なった試掘で溝やピットが検出され、これらの遺構が見つかった2,000m²について本調査としたものです。

全体の半分程度の調査をしましたが、これまでに溝6条と土壇2基、ピット数穴を検出しているだけで、あまり密度の濃い遺構ではないようです。出土遺物が少ないので時期を決定するにいたりませんが、およそ鎌倉時代以降と考えられます。



- | | | | | | | |
|----|---|--------|----|-------|----|--------|
| 1 | 2 | 金森遺跡 | 11 | 益須寺遺跡 | 15 | 布施野城遺跡 |
| 3 | | 塚之越遺跡 | 12 | 吉身中遺跡 | 16 | 岡遺跡 |
| 4 | | 伊勢遺跡 | 13 | 川田遺跡 | 17 | 下之郷遺跡 |
| 5 | ~ | 8 下長遺跡 | 14 | 経田遺跡 | 18 | 杉江東遺跡 |
| 9 | | 金森東遺跡 | | 益須寺遺跡 | 19 | 二町鏡遺跡 |
| 10 | | 酒寺遺跡 | | | | |

4 下長遺跡

古高工業団地建設に先立つ古高町下長遺跡の発掘調査は、すでに4月2日から着手しています。

元年度はおよそ1年間を通して、道路、擁壁、調整池建設箇所を対象に約12,500m²の発掘調査が実施され、調査区域内の中央をかつて流れていた旧河道とその岸辺に営まれた縄文時代晩期、弥生時代中期、弥生時代後期～古墳時代前期そして平安時代の集落跡と水田跡の存在など多くのことがわかりました。旧河道には岸辺で営まれた各時代（平安時代を除く）の集落で使われた様々な生活用品が包含されていました。土器、石器のほかに、通常残りにくい木で作られた道具、木器が保存のよい状態で多数出土しています。特に古墳時代前期の木器類は種類、数量ともに豊富で、この時代の生活を復元するうえで、間違いなく一級の資料となるでしょう。新聞などで報道された古墳時代前期の「刀の柄頭」や「やまと琴」の出土は記憶に新しいところです。さて今年度は、工場建設地を対象に約12,000m²の調査が予定されていて、開始から1ヶ月余りを経て、次第に成果を上げつつあります。現在調査を行なって入るのは上記に述べた旧河道の右岸に当たるところで、前年度調査した弥生時代中期と弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡の続きがみつかっています。弥生時代中期には、竪穴住居跡1棟と掘立柱建物跡3棟、土壇がみつかっていますが旧河道よりやや離れたところに住居が散在してたような集落であるようです。弥生時代後期～古墳時代前期の集落は中期のそれよりも川岸に位置し、竪穴住居跡3棟掘立柱建物跡5棟それに土壇、多数のピットが高い密度でみつかっている、さらに大きく広がりそうです。縄文時代～鎌倉時代の集落跡として知られている下長遺跡ですが、その盛期は古墳時代にあるようです。今年度の調査でも、昨年注目を集めた出土品に匹敵あるいはそれ以上の発見が十分期待できます。そのつど「乙貞」や現地説明会で報告していきたいと考えています。

平成2年度発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	面積㎡	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1金 森	金 森	20	-											
2金 森	金 森	2,000		—										
3塚之越	古 高	600	-											
4伊 勢	伊 勢	2,000	—	—										
5下 長	古 高	2,300	—	—										
6下 長	古 高	3,000	—	—										
7下 長	古 高	3,000				—	—	—						
8下 長	古 高	6,000	—	—										
9金森東	金 森	2,000		—										
10酒 寺	播磨田	6,000				—	—	—	—	—	—	—	—	—
11益須寺 吉身中	吉 身	4,400				—								
12川 田	川 田	3,000				—	—	—						
13経 田	今 宿	3,000		—	—									
14益須寺	吉 身	1,000		—										
15布施野	播磨田	1,200		—	—									
16 岡	立 入	25,000								—	—			
17下之郷	下之郷	2,000				—	—							
18杉江東	欲 賀	200	-											
19二町鏡	二 町	6,800		—										

※「乙貞」とは服部遺跡より出土した銅印に刻まれていた文字で、奈良時代末頃
 ※に“藤原弟貞”が私印に使用したと思われます。大きさは約3.3 cm角、高さ1.
 ※2 cm、重さ約75g です。玄関横にレプリカが建っていますので御覧下さい。
 ※